

## 令和2年度 第1回 松江市歴史まちづくり推進協議会（書面会議） 会議結果

### ◇開催日時

令和2年7月22日(水)書面会議資料配布 8月7日(金)書面決議書提出締切

### ◇参加者

〈 委 員 〉 12名

氏名	所属及び役職名	分野	備考
浅田 純作	松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 教授	学識経験者	会長
藤居 由香	島根県立大学 人間文化学部地域文化学科 准教授	学識経験者	副会長
伊藤 知恵	中心市街地活性化協議会 まちづくりコーディネーター	経済団体	
安部 登	元松江郷土館 館長	郷土史	
大北 哲也	島根県文化財所有者連絡協議会 副会長	文化財所有者	
福村 敬香	NPO 法人 松江ツーリズム研究会 理事	文化財管理者	
松本 道博	松江市公民館長会 代表（白潟公民館長）	地域代表	
牧野由紀子	松江市タウンレポーター	市民代表	
妹尾 圭人	島根県土木部都市計画課 課長	島根県	
萩 雅人	島根県教育庁文化財課 課長	島根県	
高木 博	松江市観光振興部 部長	松江市	
早弓 康雄	松江市教育委員会 副教育長	松江市	

〈 事務局 〉 16名

氏名	所属及び役職名	氏名	所属及び役職名
須山 敏之	歴史まちづくり部長	尾添 和人	埋蔵文化財調査室長
稲田 信	歴史まちづくり部次長（史料調査課長）	川上 昭一	埋蔵文化財調査室 調査係長
飯塚 康行	まちづくり文化財課長	落合 年美	松江歴史館 事務局長
飯塚 晃一	まちづくり文化財課 歴史まちづくり係長	古瀬 雅章	まちづくり文化財課 文化財保護係長
花形 泰道	観光振興部次長（観光文化課長）	藤井 浩純	まちづくり文化財課 景観政策係長
楫野 一郎	観光施設課長	井上 喬	まちづくり文化財課 歴史まちづくり係 主任
門脇 晴彦	道路課長	山崎 美沙	まちづくり文化財課 歴史まちづくり係 主任
太田 強	学校教育課長		

## ◇会議次第

1. 委員交代について [資料 1]
2. 報告事項
  - ①歴史的風致維持向上計画認定状況について [資料 2]
  - ②松江市歴史的風致維持向上計画(第 2 期)の認定について [資料 3・4・5]
  - ③第 1 期計画 最終評価シートの公表について [資料 6・7]
  - ④第 1 期計画 令和元年度進捗評価シートの公表について [資料 8]
3. 議 題
  - ①令和 2 年度の事業計画について [資料 9]
  - ②令和 2 年度歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について [資料 10]
  - ③歴史的風致形成建造物の指定について [資料 11・12]

## ◇議事の結果

- (1) 議題①令和 2 年度の事業計画について  
承認する 12 人・承認しない 0 人
- (2) 議題②令和 2 年度歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について  
承認する 12 人・承認しない 0 人
- (3) 議題③歴史的風致形成建造物の指定について  
承認する 12 人・承認しない 0 人

## ◇所 管 課

松江市 歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 電話：0852-55-5956

令和2年度 第1回 松江市歴史まちづくり推進協議会（書面会議）  
意見・質問等

浅田委員

質問・意見 1

第2期計画の松江城防災施設整備事業について、終了がR6年度と長期のため、完成までの防災もしっかり行っていただきたい。

現状の設備で実行可能な運用マニュアルを整備するとともに、工事期間中は代替の設備を設置する等、整備完了までの状況に応じた防火対策を行います。

【まちづくり文化財課】

質問・意見 2

第1期計画で行った市史編纂事業の成果について、講座の継続実施や子供向けの概略版作成など、市民への普及に努めていただきたい。

講座については、松江の歴史や松江城についての Web 講座動画の作成を始めており、今後は Web 公開を実施していきます。また、『松江市史』の内容を市民に分かりやすく伝えるため、総索引・総目次の作成、『松江市ふるさと文庫』の継続的な発刊のほか、子供向け刊行物作成にも取り組みます。【史料調査課】

### 質問・意見 3

授業プロジェクトや出前講座等について、例年、風土記の丘や神魂神社、歴史館、松江城、県庁周辺の近代建築群に学生を連れて学習の機会を設けていたが、本年度はコロナ禍で現地見学ができなかった経験から、リモート（動画）等で松江の歴史や文化について学べる資料（1本5～7分が複数）があると良い。

また、授業プロジェクトやそれ以外の観光施設も含めて、コロナ感染対策をしっかりとやってほしいし、そのために必要な協力もはっきり呼び掛けていただきたい。

ご意見のようにコロナの影響をきっかけにリモート（Webページや動画等）を活用した学びへのニーズが高まっています。

松江市史料調査課・松江城調査研究室では、令和2年度から「松江城調査研究」や「松江市ふるさと文庫」の内容をまとめた動画の作成に取り組んでいます。これは過去に開催した「松江市史講座」などのWeb版という位置づけで、市史講座受講者や受講したくてもできなかった人など、歴史文化に興味があり、より深い内容を学びたいという人を視聴対象としています。近日中に市ホームページで公開予定としており、今後はYoutubeなどでの公開も予定しています。

また、新たに松江の歴史文化に興味をもっていただくための、わかりやすい資料公開も重要だと考えています。例えば、「松江市歴史まちづくり計画（第2期）」で紹介している「歴史的風致」の内容を中心に学びの導入手段として、市民、学生、子供、観光客といった対象者を意識した数分間の短編動画を作成することも検討して参ります。

松江歴史館や島根県立八雲立つ風土記の丘などの施設では、Webを通じて自宅で楽しめる「おうちミュージアム」という取り組みが行われています。これは全国の博物館が参加している取り組みで、館内や収蔵品をバーチャルで観覧して資料収集や学びができる仕組みになっています。【まちづくり文化財課】【史料調査課】【松江歴史館】

現場でのコロナ感染対策として、松江歴史館では「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえて、来館者に検温、緊急連絡先の記入、マスクの着用、手指の消毒、一定の距離の確保をお願いするとともに、混雑時には入場制限を行い、館内スタッフが清掃を強化するなど感染症対策を徹底しています。また、そのことを当館のホームページでお知らせしています。なお、松江市所管の観光施設も同様の対策をとっています。今年度の松江城授業プロジェクトは密になるようなメニューを見直すなど感染症対策を徹底して実施する予定です。【松江歴史館】

## 藤居委員

### 質問・意見 4

北惣門橋の改架について、「木材は国産材を使い」とあるが、明治初期及び、今の樹種が何か知りたい。かつて法隆寺の修理では質に近い台湾産のヒノキを使ったそうだが、今回、国産材の方がよい理由があった方が、原価が高くても、理解が得られやすいと思う。

以前の北惣門橋に使用されていた樹種は、詳細には不明ですが発掘調査により橋の一部と見られる松材が発見されています。

現在の北惣門橋は、主に国産ヒバ材を使用し作られています。

今回の架け替えは、「松江市木材利用推進基本方針」に基づき積極的に市産及び県産木材の活用を図るため、市産及び県産木材の杉、桧及び集成材等を使用する計画です。【道路課】

### 質問・意見 5

千鳥橋も上記同様に、木材の選択基準や優先された事柄を知りたい。島根県産材を使うなど、特徴があるのかどうか。

以前の千鳥橋は橋面がアスファルト舗装であったことから、平成 5 年度に改架を行った際には史跡内という状況を踏まえ国産のヒバ材を採用しました。

今回の設計作業では「松江市木材利用推進基本方針」に基づき、市産及び県産木材の積極的な活用を想定しており、杉、桧及び集成材等を選択していく予定です。

【観光施設課】

## 質問・意見 6

中間・最終評価の「波及効果」を測定する項目の吟味が必要だと思う。昨年度 of 最終評価「効果」項目で、数値の出るものが必ずしも適切でない印象を受けた。他市町村の事例報告などから、参考になるものが見つかれば良いと思う。

例えば、松江市ホームページの歴史まち計画のダウンロード数のようなものの経年変化を表にするようなことは可能か。

最終評価の「効果」項目について、松江市では「歴史的景観保全に関する住民意識の向上」、「松江城登閣者数の増加」、「外国人宿泊者数延べ人数の増加」をあげていましたが、統計で把握できる数値が必ずしも歴史まちづくりに直接関係するとは言い切れない部分がありました。

金沢市の「講演会や探訪会の参加者人数」や「中心市街地の人口社会動態の変化」、犬山市の「地域の歴史の研究や資産を活かした取組を展開する住民の数」などを参考に、松江市でも、歴史まちづくりの取り組み効果が見えやすい項目立てを行い、数値の把握と分析に努めていきます。

また、市のホームページの歴史まち計画のダウンロード数はカウントできませんが、「歴史まちづくり関連ページ」への閲覧数をカウントし経年変化をまとめることは可能です。閲覧傾向を分析することで各施策の認知度の変化や有効性を検証することもできると考えますので、評価に活かしていきます。【まちづくり文化財課】

## 伊藤委員

### 質問・意見 7

資料 1 2 の北惣門橋の改架工事が行われるということですが、車も通ることから木製の部分の劣化が激しいように思う。観光客も歩きにくそうであるため、通行する車の制限をかけるかなにか対処したほうが良いと思う。

北惣門橋を通る城内道は、市街地の抜け道として多くの車が利用していることから、北惣門橋の劣化を進行させる要因となっているとともに、安全で自由な散策を妨げている状況にあります。

今後、改架事業を機に、地元等と協議しながら車両の通行制限を検討していきます。【道路課】

#### 質問・意見 8

歴史的に古いと思われる建物の改修が持ち主さんの意向で街の雰囲気にな合わないよう  
に改修されているものも見かけ残念に感じるものもあった。改修し終わった後に、再改  
修などの指導をすることはできるのか。

市の景観計画重点区域にある建物や、市の修景補助金等を使って改修される建物  
であれば、高さや色彩等の基準に基づき松江市から指導・助言を行うことができま  
すが、基準内で行われる個人所有の建物の改修については、市から指導することは  
できないのが現状です。【まちづくり文化財課】

#### 質問・意見 9

人参方の通りにある2つの病院が今は使われていないようですが、建物の雰囲気も良  
くリノベーション等で、町の人も利用できるものになってほしいと、個人的に感じて  
おり、ぜひ中も見たい。

おおむね昭和 25 年以前に建築された建造物で所有者に保全の意向がある場合は、  
「松江市歴史的建造物保全継承事業」において保全・活用を支援することが可能で  
す。また、松江市は遊休不動産の活用も施策として取り組んでいますので、現況を確  
認させていただき、所有者への面会が可能となった場合には、制度の説明等を行っ  
たうえで保全・活用についての意向を確認したいと考えます。【まちづくり文化財課】

## 質問・意見 10

松江の中心には、民藝館がないので、（出雲民藝館のような）古いものや、松江の伝統工芸が身近に感じられる場所ができてほしい。

伝統工芸等については、第2期松江市歴史的風致維持向上計画の第1章4「文化財等分布状況」の部分において、①めのう細工、②来待石、③陶窯、④和菓子、⑤八雲塗り、⑥出雲民藝紙、⑦籐工芸、⑧松江和紙手毬、⑨姉様人形、⑩雲州人参を紹介し、また第2章「茶の湯文化に見られる歴史的風致」の部分において、「楽山焼」、「布志名焼」、「和菓子」を掲載し、その歴史や特徴、現在における使われ方などを紹介しています。

松江市では、地域ごとの民俗資料については「鹿島歴史民俗資料館」、「八雲郷土文化保存伝習施設」、「出雲玉作資料館」などで展示を行い、「松江歴史館」では企画展で伝統工芸品を取り上げています。また、産業・観光の分野から伝統産業の支援を行い民藝品等の宣伝を行っています。

ただし、これらを歴史・文化の観点から一堂に触れて学べる場所は現在のところありませんので、今後、歴史まちづくり事業の一環として、各業界の皆様と協働して映像等の媒体を制作し発信することで、伝統工芸に興味のある人へ、その歴史や現場の様子、作品までを気軽に触れてもらい、興味を湧かたてて現場に訪れていただけるような仕組み作りに取り組んでいきたいと考えます。

伝統工芸品や民藝品が、さりげなく町のしつらえやお店のおもてなし、日常生活に使われることで、住民や来訪者が松江らしい歴史文化を感じられるようなまちづくりにつなげていきたいと考えます。【まちづくり文化財課】

## 質問・意見 11

蔵のイベントを企画したときにいくつかの蔵外観、内部をプロのカメラマンに細部まで取っていただいた。梁、扉の形、外観、一つ一つの蔵の個性が違い見れば見るほど面白く、古い建築物の奥深さに興味を更に惹かれた。蔵に限らず、歴史の古い建築物の細かい部分の写真を記録用だけでなく、観光にも使えるような写真を撮れば、今後のガイド付きの街歩きや、旅行ツアーでも宣伝効果が見込めるのではと思った。

令和元年度に市民有志によって白潟地区で開催された、「蔵 Re（くらり）」というイベントでは、写真や映像による蔵内部のバーチャルツアーをWeb配信されていました。被写体が見学者やカメラマン視線の写真や映像で切り取られ、その特徴や見どころがフォーカスされた形で見学者に伝わるよう工夫がなされていました。これまで、行政が行ってきた文化財や歴史的建造物、観光スポットとなる施設等の情報発信については、外観の記録写真的な見せ方が主流で、内部や細部の特徴にこだわった見せ方に欠けていたと感じています。

今後、我々も受けとる側の興味を意識した情報発信を心掛けるとともに、歴史的建造物の公開見学会やそれにあわせたフォトコンテストなどを企画するなど、市民や来訪者の協力も得て魅力的かつ観光等でも使えるような汎用性のあるデータを収集し、有効に発信していきたいと考えます。【まちづくり文化財課】



## 福村委員

### 質問・意見 12

北惣門橋について、比較的交通の少ない時間帯は通行止め、または片側通行にしてはどうか。

質問・意見 7 と回答同じ【道路課】

### 質問・意見 13

近年増えている廃校の活用も一種のまちづくりにつながると考える。まちづくり文化財課が担当されてもいいのではないかと。鳥取県なども新たな取り組みの報道があった。活用法を公募するなど、地元の人々の声を反映させると新たな賑わいづくりができると思う。市民の力を活用すると発想が豊かなまちづくりが生まれると考える。

廃校の活用は近年話題にも多く上がっていますが、松江市でも活用の方法を模索しているところです。「学校」であれば、教育委員会が所管となりますが、市の「普通財産」となれば、松江市資産経営課が所管となります。さらにその学校が文化財に指定されるほど価値があるものならば、まちづくり文化財課の所管となります。文化財ではなくても、歴史まちづくりに寄与する施設であれば、まちづくり文化財課が担当となって活用を検討していくこともできます。

ただ、建物の修繕や耐震補強は巨額な費用がかかることから、地元住民と一緒に、活用を検討していくことが大事であると考えます。【まちづくり文化財課】

### 質問・意見 14

旧市内の旧町名の書かれた地図や現地に表記する看板や説明書き、VRを、歴史を知る人から話を聞ける今のうちに残しておいてほしい。それを用いれば、城下町歩きや体験イベントに活用できると思う。

地名・町丁名の書かれた古地図や史料については、松江歴史館や史料調査課で所蔵しており、それらの由来を紹介しテーマ性のあるまち歩き観光を推進するため、旧城下町エリアにおいては、平成21年度から石造の町丁名案内板を設置しています。

あわせて、市内各公民館では住民の皆様がそれぞれの地区の歴史やテーマ性のある情報を盛り込んで制作された「まち歩きマップ」と「まちあるき案内板」を活用した事業が実施されています。近年の新たな取り組みとして、宍道地区では、案内板のQRコードを読み取ると映像でまち歩きが体験できる仕掛けや、歴史を知る現地ボランティアガイドを育成する取り組みをされています。

また、その土地ならではの情報を映像技術で記録・発信することは有効な活用方法だと考えますので、事業化に向けて検討していきます。【まちづくり文化財課】

### 質問・意見 15

松江藩の業績について知っている人がどれだけいるだろうか。木綿、藍染、ビールなどもっとアピールする方法はないか。

松江歴史館の基本展示室（常設展示）では松江藩の歴史や城下町松江の成り立ちをおおまかに理解できるよう工夫して展示しており、その中で木綿や蠟などの松江藩を支えた産業についても紹介しています。また、企画展示室では出雲に伝わる藍染木綿や松平不昧の指導を受けた楽山焼や布志名焼など、松江藩の産業をテーマにした企画展を開催しました。今後とも機会をみて展示などにより情報発信してまいります。

【松江歴史館】

### 質問・意見 16

学生・児童、住民に地元愛を持たせる情報発信をしてほしい。

ふるさとに愛着を持ってもらえるよう、また、その愛着が住民の活動に繋がっていくように、情報の発信の仕方を工夫していきます。【まちづくり文化財課】

### 質問・意見 17

各公民館で作られた素晴らしい地図はどのくらい周知されていて、活用されているのか。

平成 22 年度から 25 年度に「わがまち自慢発掘プロジェクト」として、市内各公民館区において制作された「まち歩きマップ」は、地元のまち歩きイベントや小中高等学校での授業、地域のウォーキングイベントや、歴史文化の学習の際に活用されています。多い地区では、年間 600 部以上が使用されています。公民館ごとに独自の情報を地図に落とされていて、よその市町村にはない、その地図自体が松江の素晴らしい「お宝」であるとも言えます。

地図は各公民館のほか、観光案内所や市役所でも配布しており、松江市ホームページからも無料で PDF をダウンロードできるようになっています。市ホームページの歴史まちづくり関連ページのなかでアクセス数が最も多いことから関心の高さが伺えます。【まちづくり文化財】

## 牧野委員

### 質問・意見 18

「松江城授業プロジェクト」や「ちやのゆ学校」等、幼少期に地元の文化に触れて体験し興味を持ってもらう機会を与えることはとても良いと思う。

あわせて、スティックビルで行われていたかもしれないが、和菓子文化にも触れる機会を与えることで、茶文化がより深まるかもしれない。

「松江城授業プロジェクト」は、天守国宝化を機に平成 28 年度から市独自事業として行っていますが、こうした地域資源（ひと・もの・こと）を活かした「ふるさと教育」を今後も引き続き推進していきます。【学校教育課】

「茶の湯文化」について、平成 31 年 4 月に施行した「松江市茶の湯条例」では、不昧公の命日である 4 月 24 日を「茶の湯の日」と決めました。この日には市内保育所、幼稚園、小中学校で抹茶を使った給食メニューを提供し（約 19,000 食）、お茶屋や和菓子店、スーパーなどでは、お茶や和菓子の特売をいただいています（62 店舗）。また、和菓子の団体が中心となり、大規模ショッピングモールで和菓子作りや抹茶点での体験イベントを開催しています（約 300 人参加）。今後も官民一体となり子どもや幅広い世代がお茶や和菓子に触れる機会を設け、茶の湯文化を深めていきます。【観光文化課】

### 質問・意見 19

歴史的建造物保全継承事業について、近所に多数あるが、これらはたまたま散歩をしていて、建物にはめ込んであるプレートを見つけて初めて気が付いた。まち歩きルート説明板などに、「この界限にはこんな所があります」と表示があると目立つと思う。

松江市の登録歴史的建造物は毎年増えていますので、すでにあるまち歩きルートの説明板に追記することは、難しいと考えています。その代わりに、登録歴史的建造物を、若い世代や来訪者にもわかりやすく紹介できるデザイン性に富んだ地図を作成することを検討しています。

また、今後、登録歴史的建造物の公開イベントを企画して、古い建物に興味のある人たちが自由に訪れて内部に触れられる機会を提供したり、古い建物の中で商品やサービスを提供してみたいという人に体験の場を提供するなど、幅広い年代、分野の人へ興味をもってもらえるように周知を図っていきます。【まちづくり文化財課】

## 質問・意見 20

古い歴史文化がある街を大切に守ることは必要だと思います。それを観光資源とすることも理解できますが、住んでいる市民が「大切であること、守るべきもの、そしてここに住んでいることはとても恵まれている」と認識することが最も重要だと思います。

若い人たちにもっと身近に、田舎でも素敵な所で自慢できる所であると導くと良いと思います。文化財は、地元住民は通り過ぎる場所にしか過ぎません。

大手前の芝生の上でヨガ教室があったり、空き家のリノベーションしている所が近年増えていますが、人（若者）が集まるイベントを開催したり、古い物を活用して新しい物を興して利用することで活性化を図れば、若者流出を防ぎ、Iターン・Uターンも増え、街も活性化するのではないのでしょうか。

古い物を活用してリノベーションし、和モダンな街であれば、住んでいて自慢できる街として、街を大切に思う意識が生まれるのではないかと思います。古臭いだけでは興味を持ちません。

ご指摘いただいたように、住民自身が、古い歴史文化のあるまちを大切に思うことが一番大事なことだと考えます。今後も、住民の意識向上を図ることを大きな目標として歴史まちづくり事業を進めていきます。

また、歴史文化遺産も、活用を見据えた保存や修理を考えていきます。活用したい住民に「場」を提供したり、「繋ぐ」ことができるよう努め、住民活動を支援していきます。【まちづくり文化財】

## 萩委員

### 質問・意見 21

関連事業の説明資料について、推進協議会でのコメント以外、アウトプットの内容が多く感じる。今後、事業評価について、効果測定や市民の皆様からのアウトカムを取り入れる仕組みを取ることはできないか。それらの内容を踏まえ、次年度事業の質がさらに向上していくPDCAが展開されるとより良い事業になっていくと思う。

進捗評価の「定性的・定量的評価」においては、件数や人数や冊数などのアウトプット（結果）を評価として記載してきた傾向にありました。ご指摘の通り、「結果」を受けた「効果」として、何が起こったのか、歴史まちづくりにどのように資することになったのか、又はそうではないのか、というアウトカム（成果）を合わせて記載し検証することで、やるべきことがより明確になり、課題もわかりやすくなると思います。

より実戦的なPDCA（Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善））につなげるために、市民・当事者の声や意識変化の傾向、売れ行きなどの経済効果、Web情報へのアクセス件数などのデータを収集・分析する方法を検討し、取り入れたいと考えます。【まちづくり文化財】